

平成26年度学校評価報告書

次のとおり平成26年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

目標に向かって心豊かで、たくましく、主体的に行動できる生徒の育成を目指す。
(1) 進んで学習に取り組む意欲・態度を培い、自ら学ぶ心の育成に努める。 (2) 基本的な生活習慣を身につけるとともに、奉仕の心の育成に努める。 (3) 何事にも積極的に参加し、困難に打ち克つ、健康な心の育成に努める。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に対応した教育課程やシラバスの作成などシステムの整備は進んでいる。 ・学力差の大きい生徒に対する授業方法については、改善をはかり続ける必要がある。 ・家庭学習時間は不足しており、学習に対する積極性を持たせる工夫をし続けなければならない。 ・道立高校間連携は、少人数指導、習熟度別授業を充実させ、生徒にも好評であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の本校に対する期待としては、学力向上、資格・検定の取得、個別学習指導を望む声が多い。 ・今後も地元から大学進学を目指せる体制を維持して欲しいとの要望が強い。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間の連携・合意を形成し、学校としての動きを強める。キャリア教育、進学講習、資格検定の取得などとの関連性を図り、生徒の目的意識向上を図る。家庭学習時間の増加に向けた対策を取る。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・特進講習は、3年計画の最後にあたる今年度全学年で開講した。3年生は、個々の進路実現に向けて健闘している。 ・上級学校企業訪問、インターンシップ、キャリア卒業研究など、本校のキャリア教育は定着し、生徒の意識を向上させる一定の役割を果たしている。 ・進路指導体制の組織化が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特進講習は、地域・保護者からも期待する声が多く聞かれる。 ・インターンシップ参加生徒の就職を望む企業の声もあった。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導体制の組織化をはかる。特進講習や地元企業との連携を強め、キャリア教育の一層の充実をはかる。企業訪問などによる地元求人開拓をすすめる。 	
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺3町村の教育委員会や地元OBとの連携を強め、高校の活性化について話し合う場を持った。 ・PTA活動の活性化を目指したが、各種行事への参加は少なかった。 ・学校ホームページや学校情報紙などにより学校の情報を地域や保護者に積極的に発信した。 ・ボランティア活動はボランティア局を中心に活発に行われた。これにより地域に根ざした教育、地域への発信をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校の活性化のためには、小中学校や、その保護者との提携強化が必要である。また、浜頓別高校の特色作りを求める意見もあった。 ・学校ホームページや学校情報紙については、より一層読んでもらえるように、画面・紙面の工夫を期待された。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・地元関係者との連携・働きかけの強化。PTA役員などとの話し合いにより、PTA活動についてはさらに魅力的な取組を増やす。学校情報紙・ホームページの更なる改善。 	
公表方法	学校ホームページ・学校だより第3号・第3回評議員会において公表	